

「多摩川水門の話」

日本水循環文化研究協会 松岡 隆文

どうも皆さん、多摩川の上流のほうのお話がありましたが、多摩川下流の町内会のジジイ目線で、多摩川の文化財というか、多摩川を含めまして、少し思っていることをお話しします。

蒲田からバスでも行けませんが、京浜急行で雑色という駅で降りて、水門通りを行きますと、六郷水門があります。当時の総工費7万5,000円で、国庫から3万円で、足りない分は六郷堤外耕地整理組合が2万5,000円、あと六郷耕地整理組合が5,000円。つまり、当時の地主さんたちがお金を出して、この水門をつくりましたということです。



写真1 六郷水門

その次に、羽田空港のそばのほうへ川を下って行くと、羽田第一水門がありまして、これが今の値段で4億5,000万円かかりましたということです。裏側の船溜まりと正面側の多摩川のところから撮った2枚の写真です。奥に見えるのが、三角に小さく立っているのが大師橋。これが羽田の第一水門です。



写真2 羽田第一水門



写真3 羽田第一水門裏側

羽田の第一水門と六郷水門の間にあるのが羽田の第二水門です。大きさは約23メートルの、幅14メートルで、水門の下に赤く、茶色に見えるのがレンガでつくられたレンガ堤の防波堤です。これがそのまま続いて行って、道路の脇に、分断はされていますが、レンガ堤の土手となって、羽田空港のそばの橋のそばまで、ほぼ1kmあります。

普段の生活の中で古くからあるということで、ずっとあるものですが、土木の遺産として登録されております。ただ、レンガの塀だということでは、住民も分からないというところですが、おじいちゃん、おばあちゃんに聞くと「ずいぶん前からあるよ」ということで、実際は、羽田の、漁業に携わった方々の住居の区域なので、その人たちが使いやすいように、また土手としての機能も含めて、切れている部分もありますけれども、今なお少しだけ残っています。



写真4 羽田第二水門

この写真が川崎河港水門ですが、六郷水門の反対側の川崎にあります。先ほどの水門よりも、ちょっとだけ豪華につくられているように見えますが、いわゆる土木屋さんがつくったものと建築家がちょっと手を入れたものとの違いでもあります。川崎市側から東京都側に、「どうだ、川崎市のほうが立派だろう」というのがつくられておりまして、これが54万円、当時かかったと。



写真5 川崎河港水門

この水門の奥に運河があるように見えますが、実はありません。それはなぜかといいますと、ここに運河の計画があったのですが、計画をしているうちに、いつの間にか道路が通り、人が住み、結果的に運河はできませんでした。ただ、この水門の脇に荷揚げする場所がありまして、それがいわゆる河港水門の「河港」の由来になっています。その港を使っていたのは、味の素です。裏に見えるのは、味の素の工場です。

川崎河港水門ですが、登録の有形文化財と近代化産業遺産ということで、登録の文化財は文化庁。近代化遺産は、通産省。最初の六郷水門の総工費は3万円で、川崎市さんの河港水門は54万円かかったと。べらぼうに高いのができていますということで、このお金もすごく苦慮したみたいですが、なんとか造ったということです。

実は、サイクリングで行っている途中で、先ほどの川崎河港水門を見つけて、「なんだ、これ、デザイン悪いな」ということで、それが最初の出会いです。今回お話しするということになり、対岸の六郷水門の写真を撮りに行ったときに、いろんなことが分かりました。

六郷水門の下の方に手摺りがありますが、実はこの手摺りのそばに釣り師がいっぱいいて、カワエビ釣りをみんなでしているそうです。餌はアカムシやカニコマとか食べるそうです。「食べる？」って聞いたら「これは食べないよ」と言っていましたけど、すごく高級な食材らしくて、食通の友人は食べたいと言っていました。

近くで何をしているかというのと、カワエビ釣りやサイクリング、多摩川の有名なランニング、年老いた方はウォーキングとか散歩とか。あと、多摩川の七福神巡りとか、羽田の七稲荷巡りとか、いろいろなアクティビティをやっている方がいます。

近くには、二ヶ領用水、久地円筒分水、川崎河港水門、六郷水門、羽田の赤レンガ堤防は先ほど申し上げました近代の土木遺産で、どこかの首長さんがレガシー、レガシーと言っていましたけど、レガシーと言っていいものだと思います。

文化財をキーワードにしてみると、例えば水門という名前を付けて、六郷水門と川崎河港水門を結ぶマラソンとか、スタンプラリー。六郷水門エビ釣り大会とか。これを水門という名前だけではなくて、いろいろなエリア、エリアで中心となるものの冠の名前を付けて、今はやりのスタンプラリーだとかをやられたらどうでしょう。

また、多摩川で言うと、河原には野球場がいっぱいあるので、ソフトボール大会もやれるし、マラソンは当然やれるというようなことで、文化財の名前を飾ったアクティビティをやられたらどうでしょうという提案です。

それをやるには、地元の古いことをする人々などが得意な分野、例えば生物系のことをよく知っている人、古い建築物についてよく知っている人、地域のいろいろな人々と、NPO 法人とコラボするのはど

うでしょうという個人的な意見です。

そういうことができるなら、多摩川周辺のいろいろな遺産と NPO 等グリッドでつないでみたらどうでしょうか。また、新たな目的や発展のためにグリッドをつないでいくことも考えられます。それと、一時期、下水ではやっておりまして、マンホールのカードみたいなものも作り配布する。それらのカードを集めると多摩川のカルタができます。

これで終わります。ありがとうございました。

【酒井】 この中では一番実現可能な、あるいは最もやりたいことは何かということと、ぜひそれを企画してほしいなと思います。

【松岡】 実は、マラソンをやりたいのですが、今、左足を肉離れしています。走りたい人がすごくいっぱいいるので、そういう場所を多摩川ということで提供できるし、ついでと言ってはなんですが、NPO 法人さんたちの各種目的も、それに抱き合わせするなり、文化財が好きな人もいますから、文化財のパンフレットもついでに配るなりして、ちょっとだけ自治体の教育委員会にゴマをすってももいいと思いますけど。僕は、今は走れないから、じゃあ今日何したいって言われれば、カワエビ釣りをしたいと思います。うまく釣れれば、カワエビの天ぷらが食えるんじゃないかということです。

【福永】 水門はとくに大事な施設で、実は地図を作るときに最初に水門を入れるのですね。歴史もたくさんあるし、逆に、先ほど見せていただいた、レンガ堤なんかの名残は、それだけ覚えている人は少ないのですけれども、マテリアルはちゃんとそこにあるので、いかようにもあとで物語が再考できるってすごく面白いなというものなのですね。なので、それをきちんとマッピングすることはすごく大事だなと思っています。

なによりもやっぱり、カワエビとか、勝手にいろんなものを見出して皆さんがやっているアクティビティがあって、それをどう横につなげるかというのは、すごく面白いなと思いました。縦横無尽にストーリーを組合せて、多様な見せ方ができるんじゃないかなとお聞きしていて思いました。

【酒井】 ぜひこれからも斬新なアイデアをお伺いしたいと思います。